

新鶴見通信

★新鶴見小学校★

子どもたちの豊かな心を育むために、今年度は特に「ふれあい」「つながり」を大事に取り組んでまいりました。その一環として、地域の皆様をご招待して子どもたちとふれあっていただく「ふれあい給食会」や1年生が近隣の保育園や幼稚園の園児さんを学校に招いて楽しんでもらう「交流会」を実施いたしました。たくさんの皆様と交流させていただき、喜んでいただけることは子どもたちにとってかけがいのない経験です。きっと相手を思いやる優しい心を育てていってくれると信じています。そしてそのことがまち・地域の福祉につながっていただけることを願い、さらによりよい取組にしていきたいと考えます。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

学校長 濱田哲也



★新鶴見小 コミュニティハウス★

暖かい秋を越え、冬到来の気配が感じられる11月24日(土)25日(日)の両日、今年で24回目を迎える新鶴見文化祭が盛大に開催されました。コミュニティハウスで活躍中のサークルによる作品展や小学校の体育館をお借りしての舞台発表等、日頃の活動の成果を存分に皆さんにご披露できたことと思います。両日も、警備や交通整理、模擬店等で大変お世話になりました江ヶ崎町内会、矢向一丁目町内会、ほか有志の皆さんにこの場をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございました。「平成最後の」という言葉が聞かれるようになりました。その節目のときに、コミュニティハウスでは何ができるだろうと模索しています。「何か特別な自主事業をしようか?」「操車場の歴史?」「館内レイアウトをリニューアルする?」「コンセプトは?」「コミュニティハウスのキャラクターをつくる?」「それに愛称をつけていただく?」などなど、思いは今からつきません。皆さん、これは!というアイデアをお持ちでしたら、ぜひ教えてください。ご意見お待ちしています。平成が終わるまで、首を長くして。

新鶴見小学校コミュニティハウス館長 伊藤崇子

★新鶴見ホーム★

新鶴見ホーム本館3階フロアを担当しております。佐藤龍翔と申します。

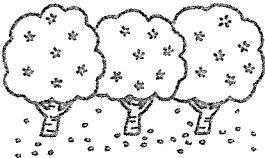
江ヶ崎町の皆様には日頃から大変お世話になり心から感謝しております。

平成も残すところあとわずかとなりました。昭和から平成に時代が移りかわり、20世紀から21世紀への「世紀」の転換もありました。2019年4月30日には今上天皇退位により平成の幕が閉じ、新たな元号が誕生します。

当施設も新たな時代を迎えるにあたり、平成31年3月1日からショートステイセンター(短期入所生活介護)を現在の定員56床から25床へ転換し、31床を特別養護老人ホームに転換することとなりました。今後も皆様が変わらずご利用いただけるよう努めてまいりますので、よろしくお願いいたします。

3階フロア長 佐藤龍翔

★新鶴見公園★



枯れ葉舞うなか、遊具と芝生のあるエリアは、きょうも元気な子どもたちで一杯です。ことしもあとわずか。この1年、新鶴見公園をご利用いただきありがとうございました。また、公園ボランティアのみなさんもお疲れさまでした。ちょっと冬休みをして、春風が吹いたら、草刈り、清掃活動をはじめましょう。みなさん、どうぞよいお年を。

新鶴見公園愛護会 菊池武徳

編集後記

平成30年も残すところあと数日となりました。「結いしんぶん第46号」をお届けします。毎回記事を寄せてくださった方々、快く取材に応じてくださった皆さんに紙面をお借りしてお礼申し上げます。今年度あと1回発行を予定しています。ご意見等ぜひお寄せください。(た)

江ヶ崎町福祉だより 第46号



発行日 平成30年12月25日
発行所 江ヶ崎地区社会福祉協議会
発行者 黒川 修三
045-583-5225
〒230-0002
横浜市鶴見区江ヶ崎町21-4



結いしんぶん



健康寿命をのばそう!

【いつまでも自分らしく生き続けたいために?】

日本が超高齢社会をむかえるなか、医療技術の進歩などで、2017年日本人の平均寿命は女性 87.26歳、男性 81.09歳でいずれも過去最高の更新をしたと厚生労働省の発表がありました。平均寿命が延びるなか、だれもが出来る限り寝たきりにならないで生活しつづけたいと願っているのではないのでしょうか。平均寿命に対し健康寿命が注目されるようになってきました。

ここでいう健康寿命とは、世界保健機関(WHO)は「健康な状態で生きられる寿命」と説明しています。

厚生労働省は「健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間」と説明しています。

つまり、手助けを受けていても、自分自身のことをやり続けながら生活できる期間のことです。

横浜市は「健康寿命日本一」を目指し、さまざまな取り組みや働きかけをしています。

横浜市の健康寿命は、男性 70.98歳、女性 75.65歳です(国民生活基礎調査:平成22年)

健康寿命を延ばすために特に(平均寿命と健康寿命の差を縮める事が大切となってきます)

特に大切なことは、人と人の「つながり」と言われています。

そのなかで「つながり」をもつためには社会活動等への参加が大切になってきます。

実際 社会活動等(ボランティア活動、趣味の活動・サークル等:月1回以上の参加)に参加している人ほど

4年後も健康で自立した生活を維持できていたとの調査結果がでています。

そこで、江ヶ崎町の自主サークル活動をされている団体をいくつかご紹介いたします。

江ヶ崎ゆうゆうサロン
毎月第2土曜日と第4日曜日
場所:新鶴見小学校コミュニティハウス

江ヶ崎ゆうゆうサロン 料理教室
毎月第2金曜日
場所:江ヶ崎公会堂

ほっとひといき サロン・サルビア
毎月第3火曜日
場所:クレストグランディオ託児室

江寿会(江楽会:お楽しみ会)
毎月第4水曜日
場所:江ヶ崎公会堂

みなさん近くにいられたら是非のぞいてみてください。

月に1回以上は友人とおしゃべりするもよし、サークル活動に参加するもよし、

お互いさまで「つながり」合いながら健康寿命を延ばしましょう。

<矢向地域ケアプラザ 地域包括支援センター 045-573-0020>

いつでも、おげんきで!

「第22回 長寿を祝う集い」が ひらかれました

「第22回 長寿を祝う集い」が、爽やかな秋晴れに恵まれた10月21日(日)正午より、新鶴見小体育館でひらかれました。

登録をされている町内70歳以上251名(新規お申し込み12名)に招待状をお届けし、114名のみなさんが出席されました。

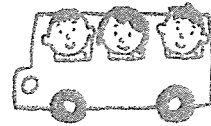
- 式典 90歳以上の方 16名(ご出席は5名)
今年85歳の方は6名(ご出席は3名)

○ 余興 ①いつも元気いっばいも新鶴見小のみなさんの「たる太鼓」

②連続22回出演 プラニアクラブのみなさんの「フラダンス」

③2回目の出演、ハッピー小林さんとその仲間たち「語りと歌~なつかしい童謡メドレー」

○ 抽選会 空くじなしの抽選会。抽選には来賓13名のお手伝いを頂きました。



11/12月の子育て広場

▲11月13日(火)の子育て広場は、「おいもパーティー」でした

およそ45組の親子が集まりました。当日は、サツマイモを蒸かしていただき、ママとお友達は、「おいしいね〜」「甘いね〜」と、たくさん食べてくれました。

▲12月11日(火)の子育て広場は、「クリスマス・パーティー」でした

パーティーwo

楽しもうと、およそ30組の親子が遊びに来てくれました。

「サンタクロースに会えるかな?」→2人のサンタのおじさん(黒川町内会長と紺野さん)が、鈴音とともに登場に子どもたちは大騒ぎ。

「どこから、来ましたか?」「何に乗って来たのですか?」サンタさんに質問したり、いっしょに歌ったり、また、いっしょに写真を撮ったりとたのしい時間をすごしました。

「プレゼントはもらえるかな?」→帰り際にサンタさんから、「動物の絵合わせ」がひとり一人に手渡され、ご機嫌の様子でした。

平成30年度 鶴見区社協 賛助会費のご報告 ご協力をいただき ありがとうございます

横浜市鶴見区社協・賛助会員募集に際しましては、多くの方の変わらぬご理解とご支援をいただき、ありがとうございました。

30年度の江ヶ崎社協の賛助会費は、6月(個人会員)11月(法人会員)を合わせて、558,000円となり、このうちの55%にあたる306,900円が還元されます。

この貴重な還元金は、「長寿を祝う集い」「高齢者食事会」「子育て支援」など、町内福祉活動に活用させていただきます。

	件数	会費納入額	会費納入金額	還元額(55%)
個人賛助会員	299件	348,000円		
法人賛助会員	35社	210,000円	558,000円	306,900円

<地域包括支援センターより>

~急激な寒暖の差にご用心~

冬場に多い「ヒートショック」

近年、夏から秋を飛び越えて突然冬がやってくる感覚があります。そこで、急激な寒暖の差によって血圧が変動して起こる「ヒートショック」に要注意です。特に11月~3月までの時期が好発時期です。「ヒートショック」を起こすと心臓や血管に異常が起こり脳内出血、心筋梗塞、脳梗塞、大動脈解離など時には突然死する場合があります。そこで、「ヒートショック」を起こさないための対策が大切になってきます。

1. 影響を受けやすい人

65歳以上、動脈硬化のリスクがある高血圧・糖尿病・脂質異常症(高脂血症など)、肥満、睡眠時無呼吸症候群、不整脈のある人

2. 場所や場面に応じた対策

1)トイレ…トイレは陽のあたらない場合にあることが多いです。

特に早朝・夜中は冷え込んでいることが多いため、暖かい布団の中からトイレへは寒暖の差があります。さらに、用を足すことで一時的でも体温が下がります。

対策:暖房便座や便座カバーを活用、小型ヒーターなどを設置してトイレを暖めましょう。(パジャマのままではなく暖かいものを羽織ったりしましょう。)

2)浴室…浴室や脱衣室は寒い環境にあることが多いです。

脱衣室が寒いと血管が縮んで血圧上昇、浴室が寒いとさらに血圧が上昇します。その後、熱めの浴槽に入ると血管が一気に広がって血圧低下となり「ヒートショック」を起こしやすくなります。

対策:①脱衣所と浴室を暖める…暖房器具を置く、浴槽のふたを開けておく。

また、浴室の床にマットやスノコなど置くことも有効です。

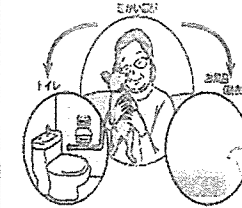
②シャワーを高い位置から流して浴槽にお湯をはる。(浴室が暖まります)

③夕食前か日没前に入浴する。

④食後1時間以内や飲酒時の入浴は避ける。

⑤お湯の温度は冬場40℃程度とする。

⑥浴槽に入る前にはかけ湯をする(手足など心臓から遠い部分からかけることで血圧の変化が緩やかとなり、心臓への負担も少なくなります)。



3)日常生活…短い時間だから大丈夫と部屋着のまま屋外に出る時も要注意です。

屋外に出て冷たい外気に触れると30秒から1分程度で血圧が上がると言われています。

対策:ベランダなどに出ての洗濯物を干す、寒い朝のゴミ捨て、郵便受けを確認する際など短い時間であっても、体が温まっても、面倒がらずコートなど暖かいものを羽織って屋外に出ましょう。

外出する時は、帽子・耳あてや手袋、マフラーなどでしっかり防寒対策をしましょう。その他カイロなど上手に使いましょう(カイロは直接肌や肌着1枚程度で貼ると低温やけどをするので注意しましょう)。

3つの首<首・手首・足首>を温めて今年の冬を乗り切りましょう!

60余年の歴史を閉じた 「鶴見川水管橋」のはなし

鴨志田 正晴

（水管橋の概要）

鶴見川水管橋は、下末吉台地にある末吉配水池（鶴見区上末吉 1-4-1）から川崎市内の川崎区、幸区を中心に給水するため 1200mmの配水本管の一部として、鶴見川を横断するために、昭和 29 年に建設された川崎市上水道局の所有（管理）の基幹施設です。

（水管橋が人道橋として利用された理由）

この橋には 直径 1200mmの配水本管の上に、幅 90cm の点検用通路がついていました。これは、水道管の点検や保守管理のためのもので、一般通行の用に供するものではなかったのですが、建設当初から、地元の矢向町内会、末吉上・下町内会の要望を受け、ほぼ黙認というかたちで点検用道路は開放され、人道橋としても使用されてきました。

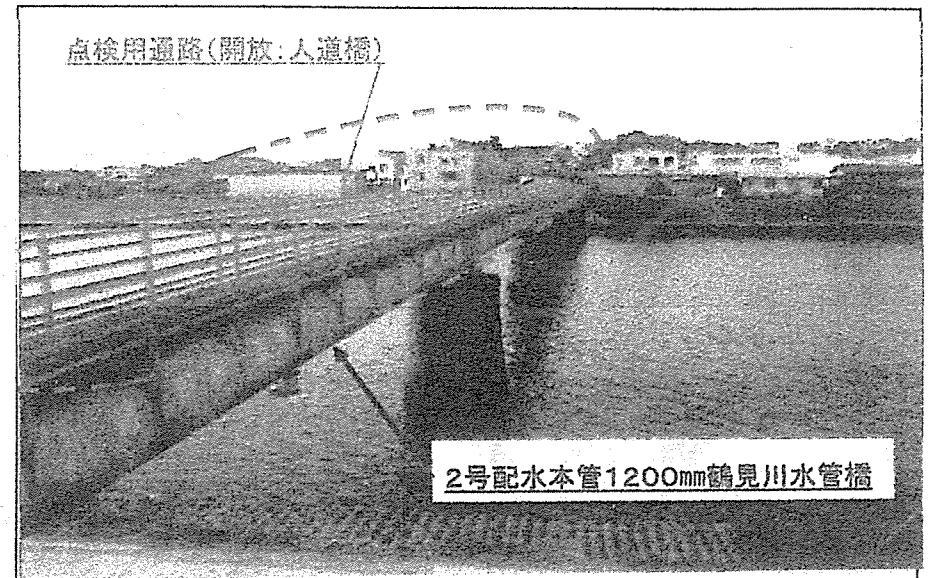
以来 60 余年、周辺地域の住民にとって、貴重な生活道になっていました。

昭和 61 年には、引き続き水管橋を人道橋として通行することについて、改めて「川崎市水道局が保有する水管橋の通行の関する覚書」を、鶴見区長が立会人となり 川崎市水道局と矢向地区連合会、上末吉連合会、下末吉地区連合会との間で取り交わされました。

（水管橋の更新工事と撤去の経緯）

川崎市は、これまでに実施した耐震診断の結果（橋脚の耐力不足）や経年劣化（築 57 年）などを踏まえ、また河川管理者との協議も重ねてきました。その結果、既設水管橋をこれまでどおり補強対策を講じて存続させることは、河川法の基準からも難しいと判断し、平成 24 年、次の抜本的な対策手段を実施することに決定しました。

- ① 新たに 1000mmの水道管を鶴見川の地下に埋設する更新（新設）工事の実施（H24 年度～H26 年度の 3 年間）
- ② 更新工事の終了後、水管橋の撤去工事の実施（H27 年度～H30 年度）



（水管橋撤去後の計画）

川崎市所有の水管橋ですが、撤去となれば、鶴見川を越えるには、約 900 m上流の末吉橋か、約 600m下流の新鶴見橋まで遠回りを余儀なくされることとなります。

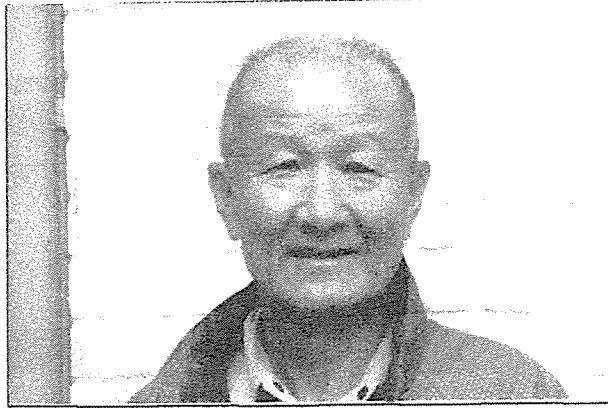
撤去を翌年に控えた平成 27 年 1 月、周辺の上末吉地区自治連合会、矢向一丁目町内会、江ヶ崎町内会が、横浜市に対し人道橋の新設を求める要望書を提出しました。

これより前、利用者から横浜市に対し、既設水管橋の存続を求める要望書と嘆願書が提出されましたが、「所有は川崎市であり、補強は困難」等として、存続不可になっていました。

住民の要望を受けた横浜市は「交通」「まちづくり」「防災」の総合的視点から、人道橋新設の必要性を検討。末吉橋—新鶴見橋間 約 1.5 kmと間隔が広く、歩行者交通の確保する必要性が高い区間とし、人道橋設置の計画を立てる旨の回答がありました。

平成 29 年 10 月から 12 月にかけて、市橋梁課による各町内会毎に地元説明会がひらかれ、旧水管橋から約 100mの上流の位置に、人道橋を新設することが決まりました。

江ヶ崎この人



がたやま かずや
淵山 一也 さん

プロフィール

生まれ：昭和22年(1947)9月9日 満72歳 亥(イ)年
鹿児島県串木野市(現 いちき串木野市)
6人兄弟(2男4女)の3番目で長男

家族：妻、子ども(2男1女)、孫2人

趣味：釣り 山歩き 旅行

嗜好：(食べ物) 好き嫌いはない。自炊生活の経験あるので 贅沢は云ってられないです。
(酒) もちろん焼酎→それも薩摩の本格焼酎(乙種)を好む。残念なことに今年2月より
ドクターストップがかかり 只今禁酒中。
(煙草) 若い頃戯れに吸った。それっきり口にしていない。

一昭和22年の生まれ「団塊の世代」

昭和22年、鹿児島県の中西部 串木野市で生まれました。正真正銘の「団塊の世代」です。

父親は船長免許を持つ漁師。串木野漁港は、魚の宝庫といわれる東シナ海に面し、遠海漁業の基点で、マグロの水揚げが多いところでした。

そんな土地柄でしたので、昭和35年 中学卒業と同時に、船に乗ることに決めました。

乗り込んだ近海マグロはえ縄漁船は50トン型の冷凍設備のない木造船で、台湾沖あたりまでが漁場でした。はえ縄は、幹縄という長いロープにたくさんの釣り糸を垂らして漁獲します。幹縄の延長は100kmにも及びます。

釣り上げたマグロは、船上で素早く血抜き、エラ、内臓を除去し海水で洗い、取り除いた部分や魚と魚の間に氷を詰めて冷蔵保存。1航海は約30日に及び、日々鮮度重視の過酷な作業の繰り返しでした。

炊事・雑用係の新米漁師は「漁師って、いつも海の上なので、結婚した場合どうなのだろう」との不安もわいて、短期間でしたが貴重な経験を得て、船を降りました。

一「築炉」という仕事に誇り

18歳の時、次姉を頼って 横浜へ来て、義兄の紹介で、鶴見市場の「石田築炉」に就職しました。

この親方は、仕事が丁寧で上手だった。この人に付いていけば仕事が覚えられる、手に職(技術)を付けられる、と思いました。これが、のちに私の一生の仕事となった「築炉」との出会いでした。

築炉とは、文字通り、「炉」を「築く」こと。

たとえば、鉄鉱石から鉄を取り出す溶鉱炉。溶けた鉄は1000℃以上になるので、高温に耐える耐火・耐火レンガで炉を作る。

なぜ、レンガで炉を作るかと云えば、部分的に補修ができるメリットがあるから。耐火レンガを炉の内壁に沿って積んでいく→単純な作業のようですが、壁の角度が変わるので、それに合うように四角いレンガを成形する。この作業は、現代でもコテやトンカチを用いて「人の手」で行います。機械ではできない、職人の技がここにあります。

27歳のころから、海外出張が増えました。初めての海外は東ドイツでした。材料調達が出来ず2年もの長丁場となったのを思い出します。

その後、サウジアラビア・イラン・マカオ・中国(北京、上海、浙江省、安徽省)・ナイジェリア・

ラスベガスなど、海外での仕事は10ヶ国以上になります。前半は熟練した築炉工として、後半は技術指導者としての出張でした。

昭和56年に築炉一級技能士、のちに職業訓練指導員(築炉科)の免許をとりました。

一昭和49年結婚 55年「ふじ地区」へ

昭和49年に結婚。私が27歳、家内(シゲ子さん)24歳でした。川崎の大島町のアパートで新生活は始まりました。

家内は、私と同郷で妹と同級、双方の母親も知り合いでした。ですから、この結婚は かなり前から身内間では内定していたらしい。知らないのは、遠距離の横浜にいる私だけでした。

家内は高校生のころ、商店でアルバイトをしていたそうです。明朗快活で接客上手、みんなに好かれる性格からか、お店は売り上げが倍増し、嫁の貰い手も多数あったという話でした。

昭和55年、江ヶ崎・ふじ地区に越してきました。家内は、当初からご近所のみなさんやPTAや川崎の親子劇場とか、同郷の友達と仲良くさせてもらっていました。

私の方は、ご覧の通り海外をふくむ長期の出張が多く、地域との関連はほとんどなかった。いまは無いJR 東日本住宅に入居されていた鹿児島県出身者との交流ぐらいでした。

最近になって、町内会イベントの手伝いを、との声をかけてもらいました。この齢になって「地域デビュー」です。ありがたく思っています。

インタビューを終えて

永年、築炉工として頑張ってきた淵山さんは、平成26年度「横浜市技能功労者」に選ばれました。

この賞は「永く同一の職業に従事し、功労顕著な技能職の方々を対象に、個人の持つ極めて優れた技能と、他の技術職者への模範となり、指導的な立場にある方を称えるために設けられた制度」であり、本当に淵山さんに相応しい、表彰と思いました。